

船井情報科学振興財団

第3回報告書

久壽米木啓悟*

Cornell University, Department of Information Science

2024年6月

気付けばアメリカの博士課程に進学してから1年が経とうとしています。前回の報告からの半年と今後の夏の予定について書きたいと思います。

授業

2024 Fall セメスターでは、指導教員である Yian のクラス「Computational Social Science of Science」を受講しました。この授業は計算社会科学、ネットワーク分析等の視点から、科学の発展やイノベーションのメカニズム、キャリアのダイナミクスを理解するもので、まさに私の研究分野です。そのため、既にこの分野についてある程度の知識を持っていましたが、この授業を通じて分野全体の把握や最新の知見を得ることができ、これまでの知識の点と点を繋げ、体系的な理解を深めることができました。

研究

今学期は自身のプロジェクトと研究室で進めているプロジェクトの両方に取り組み、どちらも良い結果が出てきています。一つは私自身が Interdisciplinary researcher (学際的研究者) であることもあり、学際的な研究の生成過程やその研究者のキャリアについて調査しています。もう一つは、AI が科学に与える影響についてです。最近では ChatGPT をはじめとする AI の進化が生活のあらゆる場面で感じられますが、私たち研究者にどのような影響を与えているのかを研究しています。どちらも近々論文として仕上がっていくと思うので、今後学会や今後のレポートで詳細について発表できるのを楽しみにしています。

また、目に目える研究の進捗以外の点でも成長を感じています。研究を進めていく中で新たな発見をしていくことはもちろんですが、毎週指導教員とのミーティングを通して、意識的に研究の進めかた・指導教員の思考回路を理解しようとしてきました。例えば、ある分析結果が出たとして、それをどのように捉え次に何をすべきなのか。これはごく一般的なメンタリングの作業フローですが、思考停止の状態では分析結果を指導教員と共有し次のリクエストをこなす状況と、自分で結果を解釈し次にすべきことを考えて指導教員とディスカッションし、アドバイス・軌道修正してもらう状況では、結果は同じだとしても吸収する知識と体験にはかなりの差があると思います。これは PhD 学生としてある種、当たり前の成長過程の一つだとは思いますが、特に今学期は意識して過ごしていました。

実際にこの“研究の進め方・考え方”を理解しようと意識は、私自身が指導“される”側から“する”側になることでかなり強くなりました。今学期に入ってから私のプロジェクトのお手伝いも兼ねて修士課程の学生が Resaerch Assistant として所属しており、ある時点から私が指導教員と修士学生の間に入って、直接アドバイスをしています。この経験は、まさに私がこれまでにアドバイシングされてきたものをアウトプットとして応用できる絶好の機会でした。他人に研究のアドバイスすることで、指導する側の考え方が少し理解できるだけでなく、仕事を割り振る重要性や難しさも体験することができ、とてもよい経験になっています。

生活

ここ数ヶ月、北米の多くのエリアで皆既日食とオーロラが観測できるとも神秘的な期間でした。予報によるとイサカはどちらも観測できる理想的な場所で、これらは数十年に一度の自然現象ということでとても楽しみにしていました。しかし、皆既日食とオーロラの観測日はどちらもあいにくの曇天に見舞われました。残念ながらニュースや SNS で見られるような完璧な観測はできませんでした。

ただ、曇天の中でも皆既日食の際には一瞬にして真っ暗になり、気温が下がり、そして再び明るくなるという数分間を体感し、不思議な感覚を味わいました。オーロラについては、うっすらと雲が明るくなる程度のものしか見られませんでしたので、次回の機会には光のカーテンを見てみたいものです。



オーロラと思われる怪しげな光



皆既日食のタイムラプス。
(上) 普段 (下) 皆既日食

夏の予定と今後

今年の夏は主にイサカで過ごす予定です。授業がないため、研究に集中するつもりです。また、イサカの夏はとても気持ちが良いです。留学前は冬の寒さに対する不安が強かったですが（実際には今年の冬は大したことなく、初めての雪国暮らしはとても美しく個人的には好きでした）、イサカの夏は気温が 30 度に達する日が数日ある程度で、湿度も東京ほど高くなく、とても快適です。

7月上旬には Washington, DC で開催される「INTERNATIONAL CONFERENCE ON SCIENCE OF SCIENCE AND INNOVATION」に参加予定です。自身の発表はありませんが、アメリカに来てから初めての学会なので、最新の情報をキャッチアップし、ネットワーキングを図り、有意義なものにしたいと考えています。

最後に

本留学を支援していただいている船井科学振興財団の皆様に心から感謝申し上げます。財団のサポートのおかげで研究に集中することができています。